

2017年度  
中京大学 教職センター活動報告

2018年10月  
教職センター  
教学部教職支援課

## <報告内容>

---

はじめに

1. 免許取得者数
2. 教育実習の状況
3. 介護等体験の実施状況
4. 教員採用試験結果
5. 教員免許状更新講習
6. 各種教員採用試験支援内容
7. 教職センター委員会・教職センター会議等の活動記録

## はじめに

---

2015年度に発足した教職センターも3年目。建学の精神に則った高い教師力を有する人材の育成を目標として順調に活動を続けております。17年度最大の課題だった教職課程再課程申請も幸い大きな問題もなく推移しております。これも全学を見通して、教職協働で教師教育を議論できる本センターの体制の賜物と考えております。

日常的な課題に目を向けますと、教員採用が厳しくなる中、2017年度も221名の教員採用試験合格者（16年度より6名増）を出すことができ、「合格者200名以上」を維持することができました。教師という仕事の厳しさが周知される中で教員免許取得者が減少傾向にあることに鑑みれば（16年度331名に対し17年度264名）、合格率はさらに上がったと言えます。教職課程を履修する学生たちの高い意欲が支えとなっているのはもちろんですが、本センターが発足して以来の教職課程の質向上、教職志望者への支援体制の充実が力を発揮している点も見逃せません。

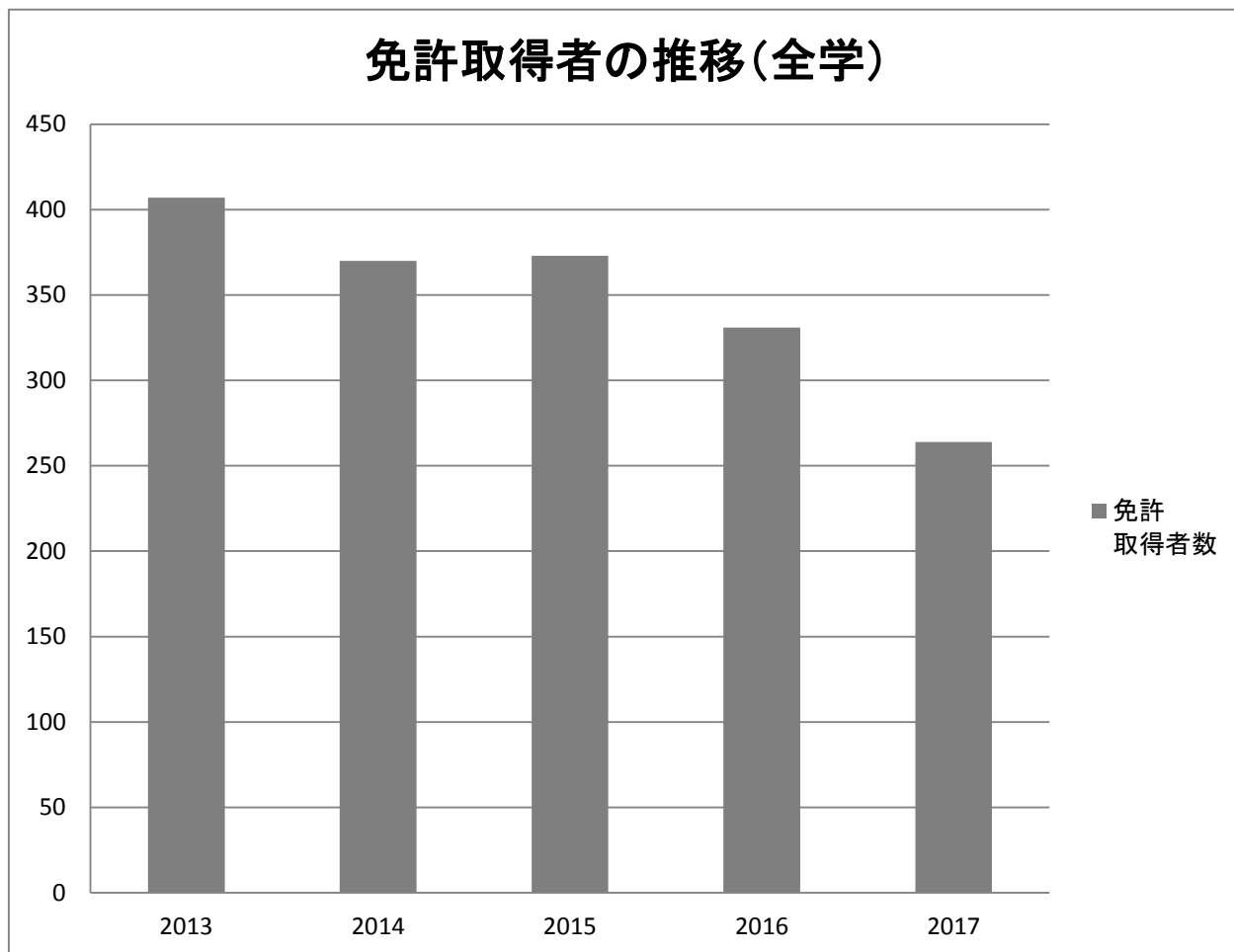
また、教育委員会との協力体制については、従来からのものに加え、愛知県・名古屋市それぞれの「教員育成指標」の策定に本学から委員を出すよう求められ、県には私、市には本センター員の国際教養学部小峰教授が出席いたしました。本学が送り出してきた教員の力量や現場での熱意が評価され、地域において教員養成を行っている大学として本学の重みが大きく認められるようになった証と考えます。この委員会が文科省の求める教育委員会・教員養成機関・教育現場の協力体制構築を目指す常設委員会に発展すれば（現在その方向で調整中）地域における本学の地位は一層高まると言えましょう。

本学の教職課程履修者は、その多くが非常に強い意志を持って日々の学習に取り組んでおり、それに応えようと教職員も一層努力することで、高め合う関係が築かれて上記のような成果を挙げられてきました。今後ともこうした関係を維持し、様々な課題に対応できる「しなやかな知識人」として教育界に貢献できる人材の育成を行ってゆきたいと考えております。本センターが、その中心的役割を担いつつ、さらには地域連携や卒業生連携を有機的に行える場としても発展できれば（それを目指す動きも開始しているのですが、その報告は次年度の報告になります）と念じております。今日までの良き伝統を大切に、さらなる発展を目指す所存です。

教職センター長 酒井 敏

## 1. 免許取得者数

### 1-1. 免許取得者の推移



年度	2013	2014	2015	2016	2017
免許取得者数	407	370	373	331	264

※科目等履修者等も含む

免許取得者数は、少しずつ減少の傾向にある。特に2017年度の教職課程履修者の減少幅が大きい。理由としては、教職課程履修を容易なものとして捉えず、本当に教職に就く意思があるかをガイダンス等で指導をしているだけでなく、就職状況も好転しているためと考える。

1-2. 免許種類別取得者数

学部

2017年度

免許状の種類	件数	教科別内訳	
		教科	件数
中学校教諭1種免許状	240	国語	13
		社会	43
		保健体育	182
		外国語(英語)	2
高等学校教諭1種免許状	278	国語	14
		地理歴史	42
		公民	29
		書道	0
		保健体育	182
		工業	1
		商業	5
		福祉	2
		外国語(英語)	3
計	518		
申請者の人数(実人員)		264名	

大学院

2017年度

免許状の種類	件数	教科別内訳	
		教科	件数
中学校教諭専修免許状	10	国語	2
		社会	0
		保健体育	8
高等学校教諭専修免許状	11	国語	2
		書道	1
		保健体育	8
計	21		
申請者の人数(実人員)		10名	

※免許申請数をもとに算出(科目等履修者数含まず)

本学の特徴として、保健体育免許(中・高)の免許取得者数が多い。(特別支援学校教諭の免許取得は2016年度卒業生まで。)

1 - 3. 学部別免許取得者数

学部・学科	区分	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
文学部 日本文学科	実人数	22	20	16	14	9
	中一種免（国語）	18	17	14	13	8
	高一種免（国語）	22	20	16	13	9
	高一種免（書道）	4	3	4	4	0
文学部 言語表現学科	実人数	4	6	6	7	5
	中一種免（国語）	4	6	6	7	5
	高一種免（国語）	4	6	6	7	5
	高一種免（書道）	1	0	3	0	0
文学部 歴史文化学科	実人数					15
	中一種免（英語）					8
	高一種免（英語）					15
国際英語学部 国際英語学科	実人数	12	5	10	8	
	中一種免（英語）	12	4	7	8	
	高一種免（英語）	12	5	10	8	
国際英語学部 英米文化学科	実人数	9	12	12	13	
	中一種免（英語）	9	11	11	11	
	高一種免（英語）	9	12	12	13	
国際英語学部 国際英語学科 国際英語キャリア専攻	実人数					1
	中一種免（英語）					1
	高一種免（英語）					1
国際英語学部 国際英語学科 英語圏文化専攻	実人数					1
	中一種免（英語）					0
	高一種免（英語）					1
国際英語学部 国際英語学科 国際学専攻	実人数					1
	中一種免（英語）					1
	高一種免（英語）					1

学部・学科	区分	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
国際教養学部 国際教養学科	実人数	0	1	1	3	3
	中一種免（社会）	0	1	0	2	2
	高一種免（地歴）	0	1	0	2	2
	高一種免（公民）	0	0	1	1	1
心理学部 心理学科	実人数	4	10	7	9	1
	中一種免（社会）	3	9	7	9	1
	高一種免（公民）	4	8	6	9	1
	特支一種免（知）	2	7	1	5	
現代社会学部 現代社会学科	実人数	17	26	16	12	24
	中一種免（社会）	15	21	11	10	16
	高一種免（地歴）	14	17	12	10	17
	高一種免（公民）	6	16	15	7	16
	高一種免（福祉）	1	0	0	0	2
法学部 法律学科	実人数	3	2	6	2	2
	中一種免（社会）	2	2	6	2	2
	高一種免（地歴）	3	2	4	2	1
	高一種免（公民）	1	1	1	2	2
総合政策学部 総合政策学科	実人数	2	4	6	3	3
	中一種免（社会）	1	4	6	3	3
	高一種免（地歴）	0	3	2	3	1
	高一種免（公民）	1	3	1	1	1
経済学部 経済学科	実人数	7	5	3	9	12
	中一種免（社会）	4	1	2	7	10
	高一種免（地歴）	5	3	1	3	5
	高一種免（公民）	3	4	2	3	7
	高一種免（商業）	1	1	1	2	2

学部・学科	区分	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
経営学部 経営学科	実人数	6	4	5	2	4
	中一種免(社会)	2	0	2	0	1
	高一種免(地歴)	2	0	1	0	1
	高一種免(公民)	3	0	2	0	1
	高一種免(商業)	3	4	3	2	3
情報理工学部 情報システム工学科	実人数	4	8	5		
	中一種免(数学)	3	7	5		
	高一種免(数学)	2	8	5		
	高一種免(情報)	2	3	1		
情報理工学部 情報知能学科	実人数	0				
	中一種免(数学)	0				
	高一種免(数学)	0				
	高一種免(情報)	0				
情報理工学部 情報メディア工学科	実人数	12	5	6		
	中一種免(数学)	9	5	5		
	高一種免(数学)	9	5	6		
	高一種免(情報)	4	2	2		
情報理工学部 機械情報工学科	実人数	1	6	2		
	中一種免(数学)	1	5	2		
	高一種免(数学)	0	5	1		
	高一種免(情報)	0	2	0		
工学部 電気電子工学科	実人数				2	1
	高一種免(工業)				2	1
体育学部 体育科学科	実人数	219	1			
	中一種免(保健体育)	219	1			
	高一種免(保健体育)	219	1			



学部・学科	区分	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
体育学部 健康科学科	実人数	60				
	中一種免（保健体育）	60				
	高一種免（保健体育）	60				
スポーツ科学部 スポーツ教育学科	実人数		101	104	102	90
	中一種免（保健体育）		101	104	102	90
	高一種免（保健体育）		101	104	102	90
スポーツ科学部 競技スポーツ科学科	実人数		95	108	94	74
	中一種免（保健体育）		95	107	93	74
	高一種免（保健体育）		95	108	94	74
スポーツ科学部 スポーツ健康科学科	実人数		34	42	26	17
	中一種免（保健体育）		34	42	26	17
	高一種免（保健体育）		34	42	26	17
免許状取得者数（実人数）		382	345	355	306	263

## 2. 教育実習の状況

### 2-1. 学部別教育実習者数

年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
実施者数	440名	372名	380名	316名	316名

#### 2017年度

学部	時期	前期 (5~7月)	後期 (8~12月)	合計人数	備考
日本文学科		9	0	9	
言語表現学科		4	1	5	
歴史文化学科		15	0	15	
国際英語学科 国際英語キャリア専攻		1	0	1	
国際英語学科 英語圏文化専攻		1	0	1	
国際英語学科 国際学専攻		1	0	1	
国際教養学科		3	0	3	
心理学科		1	0	1	
法律学科		1	1	2	
総合政策学科		1	1	2	
経済学科		12	0	12	
経営学科		3	1	4	
現代社会学科		22	5	27	
電気電子工学科		0	1	1	
体育学科		1	0	1	
スポーツ教育学科		75	21	96	
競技スポーツ科学科		65	15	80	
スポーツ健康科学科		16	2	18	
総計		231	48	279	

※教育実習ⅠおよびⅡの単位取得者で集計、科目等履修生除く

教職課程履修者の減少とともに、教育実習者数も減少傾向にある。  
教育実習時期については、春学期が約83%、秋学期が約17%と大半が春学期実習である。  
学部別ではスポーツ科学部（保健体育）が最も多い。次いで社会科免許が取得できる文学部歴史文化学科、現代社会学部となっている。

## 2-2. 都道府県別・校種別教育実習者数

2017年度

都道府県	教育実習者数
愛知	140
三重	25
岐阜	20
静岡	14
北海道	7
長野	7
大阪	6
香川	5
福井	5
兵庫	5
広島	5
京都	5
高知	4
福岡	4
山口	4
滋賀	4
徳島	3
熊本	3
富山	2
石川	2
長崎	1
神奈川	1
群馬	1
京都府	1
沖縄	1
奈良	1
和歌山	1
秋田	1
新潟	1
総計	279

2016年度

校種	教育実習者数
中学校	87
高等学校	186
中学校・高等学校	6
総計	279

都道府県別では東海3県（愛知・岐阜・三重）で約66%を占めるが、東海3県以外にも全国26都道府県と広範囲に渡って教育実習に行っているのも本学の特徴である。

### 3. 介護等体験の実施状況

#### 3-1. 介護等体験(社会福祉施設)実施者数

年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
実施者数	394名	382名	362名	298名	289名

2017年度

No.	種別	番号	施設名	キャンパス	実施者数	
1	老人ホーム・デイサービス	シ022	特別養護老人ホーム フラワー園	豊田	7	
2		シ032	小原安立	豊田	9	
3		養護老人ホーム	シ041	特別養護老人ホーム 誠和荘	名古屋	7
4			シ042	養護老人ホーム 誠和荘	名古屋	6
5			シ044	特別養護老人ホーム みなみ福寿園	豊田	4
6			シ049	あいせの里	名古屋	8
7	デイサービス		シ002	なごやかハウス岳見	豊田	8
8		シ011	デイサービス星崎	豊田	4	
9		シ026	とよた苑デイサービスセンター	豊田	7	
10		シ037	豊寿園デイサービスセンター	豊田	5	
11		シ040	なごやかハウス名西デイサービスセンター	豊田	8	
12	児童福祉・障害児	シ008	照光愛育園	豊田	12	
13		児童養護施設	シ015	光輝寮	豊田	8
14			シ024	慈友学園	名古屋	8
15			シ029	岡崎平和学園	豊田	10
16			母子生活支援施設	シ027	愛のさと梅坪	豊田
17		シ045		愛知昭和荘	名古屋	10
18		障害児入所	シ004	名古屋市あけぼの学園	名古屋	10
19			シ019	小原学園	豊田	9
20		障害児通所	シ028	豊田市障がい者総合福祉会館	豊田	8
21			シ033	ひまわり	豊田	9
22	障害者(身体・知的)	シ014	春日苑	豊田	12	
23		身体障害者	シ025	ひかりの丘	豊田	8
24			シ043	ハートランド小牧の杜	名古屋	8
25			シ046	わかくさ学園	豊田	10
26			身体・知的障害者等	シ001	サポートセンターbeing瑞穂	豊田
27		シ006		リサイクル港作業所	豊田	8
28		シ013		はさま	豊田	11
29		シ016		けやきワークス	豊田	8
30		シ018		豊田市障がい者総合支援センター暖	豊田	7
31		シ048		サポートセンターbeing吹上	豊田	5
32		知的障害者		シ034	そだちの家	豊田
33			シ036	ぬくもりワークス	豊田	8
34			シ039	ゆたか希望の家	豊田	7
35			シ047	いわざき授産所	豊田	6
36		生活保護・救護施設	シ023	愛恵園授産所	豊田	10
				合計	289	

教職課程履修者の減少とともに、体験者数も減少傾向にある。実施施設数としては、豊田キャンパスで29施設、名古屋キャンパスで7施設の愛知県内36施設にて介護等体験を実施した。

### 3-2. 介護等体験(特別支援学校)実施者数

年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
実施者数	388名	388名	366名	295名	288名

2017年度

No.	種別	学校名	キャンパス	実施者数
1	知的障害	愛知県立 みあい特別支援学校	豊田	37
2		愛知県立 三好特別支援学校	豊田	48
3		愛知県立 春日井高等特別支援学校	豊田	30
4		愛知県立 豊田高等特別支援学校	豊田	55
5		愛知県立 いなざわ特別支援学校	名古屋	39
6		名古屋市立 西養護学校	名古屋	18
7	肢体不自由	愛知県立 豊橋特別支援学校	豊田	9
8		愛知県立 岡崎特別支援学校	豊田	26
9		豊田市立 豊田特別支援学校	豊田	26
			合計	288

教職課程履修者の減少とともに、体験者数も減少傾向にある。実施学校数としては、豊田キャンパスで7校、名古屋キャンパスで2校の愛知県内9校の特別支援学校にて介護等体験を実施した。



年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
<b>全合格者数</b>	<b>220名</b>	<b>219名</b>	<b>233名</b>	<b>215名</b>	<b>221名</b>
中学校	81名	73名	84名	74名	72名
高等学校	56名	46名	54名	33名	42名
中学校・高等学校	3名	3名	3名	2名	4名
小学校	47名	57名	56名	60名	62名
特別支援学	33名	38名	36名	45名	39名
その他(兼教・校種不明)	0名	2名	0	1名	2名

※公立学校のみ

現役・既卒の合計では毎年200名を超える合格者を輩出しており、2017年度も同様な結果となった。  
 自治体は東海圏以外にも、神奈川県、横浜市、堺市、神戸市など、関東・関西圏も含めて全国に渡って合格者が出ている。  
 教職履修者が減っているが、支援内容の再検討や過去の合格者分析等を実施・提示したことで安定して合格者を出すことができた。

#### 4-2. 教員採用試験結果(現役学部別)

2017年度	文			心理	法	経済	経営	工	国英			総合政策	国際教養	現代社会	スポーツ			大学院	合計	
	日本文	言語表現	歴史文化	心理	法律	経済	経営	電気電子工	国際英語	英米文化	総合政策	国際教養	現代社会	スポーツ教育	競技スポーツ	スポーツ健康				
高校	3(2)						2(1)									3	1		1	10(8)
中学	6(4)	1			1	1										15(10)	3(2)	2		29(21)
中・高																				
小学校				2(1)										3		28(18)				33(22)
小・中																				
特別支援			1													1	2(1)			4(3)
合計	9(6)	1	1	2(1)	1	1	2(1)							3		47(32)	6(4)	2	1	76(54)
名古屋/豊田	17(12)											58(41)					1			

※大学院 体育学研究科1名

2016年度	文			心理	法	経済	経営	工	国英			総合政策	国際教養	現代社会	スポーツ			大学院	合計	
	日本文	言語表現		心理	法律	経済	経営	電気電子工	国際英語	英米文化	総合政策	国際教養	現代社会	スポーツ教育	競技スポーツ	スポーツ健康				
高校	1	1				1							1			3(2)	4(3)		1	12(10)
中学	2	1		1					2(1)	1	2					18(13)	4(3)	4		35(28)
中・高																1				1
小学校					1					1			1			29(18)				32(21)
小・中																				
特別支援				2														1		3
合計	3	2		3	1	1			3(2)	1	2		2			51(34)	8(6)	5	1	83(63)
名古屋/豊田	16(15)											66(47)					1			

※大学院 文学研究科1名

2015年度	文			心理	法	経済	経営	情報理工	国英			総合政策	国際教養	現代社会	情報理工	スポーツ			体育学院	合計
	日本文	言語表現		心理	法律	経済	経営	機械情報工	国際英語	英米文化	総合政策	国際教養	現代社会	情報システム	情報メディア	スポーツ教育	競技スポーツ	スポーツ健康		
高校	1						1		2	3(2)						3	2	2		14(13)
中学	4(3)	1							3(2)	4(3)				5(3)	1	14(11)	3	1		36(28)
中・高																				
小学校													1			24(18)				25(19)
小・中																				
特別支援																				
合計	5(4)	1					1		5(4)	7(5)			6(4)	1		41(32)	5	3		75(60)
名古屋/豊田	19(15)											56(45)								

2014年度	4	2		2				2		5		2(1)	1	2(1)	1	22(18)	7(5)	3	1	54(46)
名古屋/豊田	17(16)											37(30)								

2013年度	11(10)	1				1			4(3)	2			1			29(28)				49(46)
名古屋/豊田	19(17)											30(29)								

傾向としては、スポーツ科学部(教科:保健体育)を筆頭に、文学部(教科:国語)、国際英語学部(教科:英語)での合格者が多い。  
 2017年度は国際英語学部の教職履修者がほとんどいなかった。社会系学部においても数は少ないが合格者(社会科)も出ている。  
 校種で見ると、中学校で多く合格者が出ている。(本学では通信教育連携プログラム(玉川大学)により小2種免が取得でき、小学校合格も出ている。) 2015年度経営学部、2016年度経済学部、2017年度経営学部より商業の現役合格者が出ている。

## 5. 教員免許状更新講習

### 2017年度実施 教員免許状更新講習 講義概要

#### 【必修領域】

講習の名称	講習の概要	担当講師	時間数	講習の期間	受講料	受講人数
教育の最新事情	<ul style="list-style-type: none"> <li>世界の教育と日本の教育を比較しながら、今必要と考えられる学校教育について検討する。</li> <li>「教師のライフコース」を辿りながら、子ども親・教育親について考察する。ワークショップを取り入れる。</li> <li>発達障害児の理解とその支援について検討する。</li> <li>近年の生活状況の変化を踏まえた生徒指導や、カウンセリングマインドに基づいた支援のあり方について検討する。</li> </ul>	大内 裕和(国際教養学部教授) 小峰 総一郎(国際教養学部教授) 明敏 光直(心理学部准教授) 鎌田 陽世(国際教養学部非常勤講師)	6時間	平成29年8月3日	6,000円	60人

#### 【選択必修領域】

講習の名称	取り扱う事項	講習の概要	担当講師	時間数	講習の期間	受講料	受講人数	主な受講対象者		
								学校種	免許職種、教科等	職務経歴等
学校教育における課題と展望	学校を巡る近年の状況の変化 学習指導要領の改訂の動向等	<ul style="list-style-type: none"> <li>学力の本質の解明と新学習指導要領とを対照する。</li> <li>日本の学校教育が持っている特徴を国際比較と歴史の視点から紹介し、近未来の社会に向けてどのような課題があるかを紹介する。その上で、展望を受講生と議論する。</li> </ul>	大内 裕和(国際教養学部教授) 相澤 真一(現代社会学部准教授)	6時間	平成29年8月4日	6,000円	30人	小学校 中学校 高等学校 特別支援学校	特定しない	特定しない
教師が生きる学校経営	様々な問題に対する組織的対応の必要性 学校における危機管理上の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校は、基本的に教師個人の仕事遂行が多い職場である。その際に気をつけることや同僚性が大切なことを生徒指導面に焦点を当てて理解を深める。</li> <li>学級崩壊克服から生き生きとした学びの学校づくりを成し遂げた体験を通して理解を図る。</li> </ul>	山田 宏(国際教養学部非常勤講師) 山本 美一(元名張市立つづけ丘小学校校長)	6時間	平成29年8月4日	6,000円	30人	小学校 中学校 高等学校 特別支援学校	特定しない	特定しない

#### 【選択領域】

講習の名称	講習の概要	担当講師	時間数	講習の期間	受講料	受講人数	対象職種	主な受講対象者
健康・スポーツに関する指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康教育の概要とその実際。HQCにおける、特性要因分析、チェックリストの実際とその効果。</li> <li>子どもの健康づくりに必要な睡眠・食事・運動、およびスポーツ中のけが予防のための身体操作を学ぶ。</li> <li>現代社会における体育・スポーツの諸問題についてスポーツ哲学・倫理的アプローチにより問題解決の方向性を探る。</li> <li>体育活動中のスポーツ事故の予防と救急処置についてアスレティックトレーナーの立場から情報提供する。</li> </ul>	小磯 透(スポーツ科学部教授) 湯浅 景元(スポーツ科学部教授) 近藤 良享(スポーツ科学部教授) 村田 祐樹(スポーツ科学部助教)	6時間	平成29年8月2日	6,000円	50人	教諭	中学校保健体育科・高等学校保健体育科教諭向け
生徒指導に関する学校と関係機関との連携	中教審答申「チームとしての学校の在り方と今後の改善方策について」(2015年12月)は、「教職員一人一人が自らの専門性を発揮するとともに、心理や福祉等の専門スタッフ等の参画を得て、課題の解決に求められる専門性や経験を補う」必要性を指摘している。本講座では、子どもの貧困問題、不登校、非行等に関わってきた専門家によるケース・スタディを中心に、学校と関係機関との連携のあり方について検討する。	井上 陽子(国際教養学部非常勤講師) 丹下 加代子(国際教養学部非常勤講師)	6時間	平成29年8月2日	6,000円	30人	教諭	小学校・中学校・高等学校教諭向け
新しい国語科指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>中学校や高校で漢文を授業するにあたり、役にたつ知識を提供したい。①漢和辞典の使い方を知る。②漢詩における対句の効用を実感するの二点について説明する。</li> <li>上代から近代に至る主要な文学作品について、①季節②行事をテーマに、時代縦断的に教材として取り上げて、その共通点・相違点などに注目することで、新教材としての可能性を追究し、かつ日本文化の伝統について考察したい。</li> </ul>	福井 佳夫(文学部教授) 佐々木 俊臣(文学部客員教授)	6時間	平成29年8月7日	6,000円	30人	教諭	中学校国語科・高等学校国語科教諭向け
ワークショップ:協同学習を創る	日本協同教育学会が開発した協同学習の進め方の基本習得のためのワークショップを行う。受講者参加型の講習となる。 ①協同の考え方に立つ学習観・教育観 ②授業で使える協同の技法	有本 高耐(国際教養学部非常勤講師)	6時間	平成29年8月7日	7,000円	24人	教諭	小学校・中学校・高等学校教諭向け
言葉への理解を深める	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会における性差、地域差、世代差などの多様性が言葉に与える影響について具体例を挙げ、学校教育の視点から考察する。</li> <li>多言語社会の言語政策、言語状況、教育の現状を、特にインドの事例を踏まえて報告する。教育言語、母語の重要性、英語の功罪、言語学習負担、インドの教育問題等について考察する。</li> </ul>	吉川 寛(国際英語学部非常勤講師) 榎木園 鉄也(国際英語学部教授)	6時間	平成29年8月8日	6,000円	30人	教諭	小学校・中学校・高等学校教諭向け
道徳教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>「考え、議論する道徳」への転換と言われている近年の道徳教育政策の動向を概観し、今後の道徳教育のあり方考える。</li> <li>ヨーロッパ評議会が開発・推進してきた人権教育実践の一部を体験する。またその背景にある経験学習論を考察する。</li> </ul>	原口 友輝(国際教養学部講師)	6時間	平成29年8月8日	6,000円	30人	教諭	小学校・中学校・高等学校教諭向け

必修領域で1講習、選択必修領域で2講習、選択領域で6講習を実施した。すべての講習を8月に実施しており、多くの現職教員の方に受講いただいた。



## 6. 各種教員採用試験支援内容

教員採用試験対策として、筆記試験および人物評価試験の対策を行っている。特に人物評価試験については、学校教員経験者を指導者として招き、教員採用試験対策だけでなく教員となったときに第一線で活躍することができることも念頭に、実際の学校現場での課題や児童・生徒との接し方などをはじめ、様々な支援や指導を行っている。また卒業生に対して、4月勤務後の6月頃をめどに勤務校へ訪問し、卒業生激励を行っている。勤務が始まり精神的にも悩みを抱え始めたころに激励することで、卒業生のモチベーションをあげるだけでなく、各学校現場にも大学支援の手厚さを伝えることができている。また、これまでの支援によって培われた卒業生の指導力にお褒めの言葉をいただくことがほとんどである。

### (1) グループ指導会

人物評価試験対策を中心として授業の空き時間に複数の学生が集まって学ぶ指導会。指導者として学校教員経験者が入り、学習状況に応じてアドバイス等を行っていく。教員の資質にかかわる学びも行いながら、人物評価試験の枠を超えた支援も行っている。教員採用試験対策として3年生秋学期、4年生春学期まで行い、教員採用試験を中心とした指導を実施している。4年生秋学期からは試験対策ではなく学校教員として教壇に立つ上で必要な指導を行った。学級担任としての事務、評価と評定について、授業経営について、障害のある児童生徒や問題行動への対応について等、現場で即戦力となる人材の育成を目的に指導した。

### (2) 小論文個別添削

低学年から体系的に行われるガイダンス形式の講義で小論文の書き方を学び、実際に自身で書き上げた願書等の自己PR文や小論文過去問題、さらに提示した予想問題に対して書き上げてきた文章を1対1の個別形式で指導する。個人に合わせたきめ細かい指導を行い、合格できる小論文の書き方を身につけさせる。3年生秋学期から教員採用試験2次試験直前までの期間で実施した。また、個別で見つかった課題を全体にフィードバックする機会としてグループ指導会を利用し、合わせて

### (3) OB・OGによる学習会

名古屋市採用試験対策（1次・2次）や、その他自治体向け採用試験対策（1次・2次）でOB・OG教員を招き1日かけて面接対策と実技対策を行った。それぞれ、1次対策は4～5月、2次対策は8月に行った。在学生だけでなく卒業生も参加した。本番を意識しており緊張感のある中で取り組む。講評もかなり厳しいが、より完成度の高い仕上がりとなって本番を迎えることができている。

### (4) 教員採用試験合格者報告会

教員採用試験合格者による体験談報告会で各キャンパスごとに行った。合格者より試験勉強方法や取り組み方、モチベーションの維持などを報告してもらい、個別面談も通して次年度教員採用試験を受ける学生にアドバイスを行ってもらった。特に個別で相談できるため、専門教科の勉強方法などとても参考となったという後輩の感想も多かった。また複数の自治体への受験方法など受験テクニックに関するアドバイスもあり、これまで意識していなかった受験自治体や受験勉強方法を知ることができている。

### (5) 教員採用試験対策講座

小論文を除いた筆記試験対策として、一般教養、教職教養、そして一部専門教養試験の対策講座を実施。2年生秋学期よりまずは基礎学習としてスタートし、3年生で年間を通してより深く学び、4年生で過去問題を中心とした対策を行った。また、長期休暇後等に計画的な模擬試験を実施しており、学生自身の学習進捗やその成果を図ることができるように工夫している。

### (6) その他

学校ボランティアの紹介、教育機関や学校との連携事業等を紹介するガイダンスは低年次より行い、進路選択として教職に就く意思の決定や学校現場経験を積めるよう早期から支援を行った。また進路相談等、個別の対応も随時行った。特に近年では、学校ボランティアへの参加を促し、早くから経験値を蓄えるように指導している。

## 7. 教職センター委員会・教職センター会議等の活動記録

### (1) 教職センター委員会

回	日時	場所	議題
1	2017年4月26日(水)	センタービル9F 第5会議室	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職センター委員会委員長の選出について</li> <li>・2016年度教員免許状取得者数及び件数について</li> <li>・2016年度教員採用試験合格者数について</li> <li>・教職課程再課程申請関係について</li> <li>・教職センター中期計画および2017年度目標設定について</li> <li>・中京大学教師教育論叢について 等</li> </ul>
臨時 (1)	2017年9月7日(水)	センタービル9F 第5会議室	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職再課程申請の準備依頼について</li> <li>・再課程申請に関する学長答申(最終答申)について</li> </ul>
2	2017年11月29日(水)	センタービル9F 第5会議室	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2017年度教員採用試験合格者数について</li> <li>・2018年度「教員免許状更新講習」について</li> <li>・教職センター部会活動報告について</li> <li>・文学研究科歴史文化専攻の教職課程申請について</li> <li>・教職履修カルテの電子化について</li> <li>・再課程申請に関する学長答申(最終答申)について 等</li> </ul>
臨時 (2)	2018年3月2日(金)	メール会議	<ul style="list-style-type: none"> <li>・再課程申請事前相談における指摘事項とその対応について</li> <li>・教職課程履修規程の変更について</li> </ul>

### (2) 教職センター会議

回	日時	場所	議題
1	2017年4月19日(水)	名古屋教職支援課 会議室	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職センター員の業務について(申し送り事項)</li> <li>・2017年度教職センター員の選出について</li> <li>・2017年度部会および活動報告について</li> <li>・教職センター中期計画および2017年度目標設定について</li> <li>・再課程申請に関する学長答申(中間答申)について</li> <li>・再課程申請の最新動向について</li> <li>・大学院教職課程の見直しについて (大学院教職カリキュラム表の作成) 等</li> </ul>
2	2017年6月22日(木)	名古屋教職支援課 会議室	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職課程法令改正対策部会からの報告</li> <li>・教職課程再課程認定等に関する説明会日程について</li> <li>・文学研究科歴史文化専攻の教職課程申請について 等</li> </ul>
3	2017年7月19日(水)	名古屋教職支援課 会議室	<ul style="list-style-type: none"> <li>・再課程申請について</li> <li>・今後のスケジュールについて 等</li> </ul>
4	2017年9月5日(火)	名古屋教職支援課 会議室	<ul style="list-style-type: none"> <li>・再課程申請内容(確定)について</li> <li>・2016年度教職センター活動記録について 等</li> </ul>
5	2017年10月25日(水)	名古屋教職支援課 会議室	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2018年度教員免許更新講習について</li> <li>・名古屋市教育委員会との連携について</li> <li>・特別支援学校教諭免許支援関係について</li> <li>・再課程申請の進捗について</li> <li>・2017年度教員採用試験合格者報告 等</li> </ul>
6	2018年3月2日(金)	メール会議	<ul style="list-style-type: none"> <li>・再課程申請事前相談における指摘事項とその対応について</li> <li>・教職課程履修規程の変更について</li> <li>・個別対応が必要な指摘事項について</li> </ul>

### (3) 各種部会

#### ●教育委員会人事交流検討部会

回	日時	場所	議題
1	2017年10月25日(水)	名古屋教職支援課 会議室	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援学校との連携強化について (教育実習枠確保、連携内容) 等</li> </ul>

#### ●教職課程法令改正対策部会

回	日時	場所	議題
1	2017年6月16日(金)	名古屋教職支援課 会議室	<ul style="list-style-type: none"> <li>・再課程申請の最新動向について</li> <li>・再課程申請に向けた準備等について</li> <li>・教職課程再課程認定等に関する説明会日程について 等</li> </ul>